

## 第5回 ICTA 国際会議ニュース

昭和49年4月 日本熱測定学会は、第5回 ICTA 国際会議(1977年)を日本に招致する旨を ICTA 理事会に申請した。

昭和49年6月 日本熱測定学会幹事会は、第5回 ICTA 国際会議の日本開催が決定した場合の組織委員長として、関 集三阪大教授を選出し、直ちに ICTA 理事会に報告した。

昭和49年7月 ハンガリーのブダペストで開催された第4回 ICTA 国際会議の際に、ICTA 理事会は1975~1977年の ICTA 会長に神戸博太郎東大教授を選任し、併せて第5回 ICTA 国際会議を日本で開催する旨を決定した。

昭和49年8月 開催の時期、会場について、国立京都国際会館と交渉し、昭和52年8月1日~6日の6日間、京都国際会館で開催することを内定した。

昭和49年11月 第5回 ICTA 国際会議組織委員会設立準備委員会を開催、組織委員長(長:関 集三阪大

教授)、募金委員会(長:未定)、プログラム委員会(長:大塚良平早大教授)、プロシーディング委員会(長:千原秀昭阪大教授)、現地委員会(長:近藤良夫京大教授)を設立することを決定し、募金委員会を除く各委員会の委員長を選任した。

昭和49年12月 京大楽友会館において、第1回実行委員会(各委員会の委員長と事務局を以て構成)を開催し、国際会議開催のためのスケジュールの概要、および運営体制について協議した。

昭和50年1月 第2回実行委員会(学士会館)を開催、プロシーディングスの形式、内容に関して協議、また会議開催に要する予算額を検討した。

昭和50年3月 第3回実行委員会(学士会館)を開催、先に各国の主な ICTA メンバーに対して行なったアンケート調査の結果を整理し、会議の開催および運営のための資料として検討した。

特に第5回国際会議では、Analytical Calorimetry を新しく Section の中に加えることとし、国内外の関係学会、グループ、研究者に対し、この旨の周知方をはかることとした。

## 会報

### 第2回幹事会

昭和50年1月28日 12:30~15:00 学士会館本館で開催。出席者8名、第10回討論会収支決算の承認、第11回討論会を下記により開催することを決定。

日時 昭和50年11月19日(水)~21日(金)

場所 電気ビル本館会議室

(福岡市中央区渡辺通2-1-82)

運営委員長 尾山外茂男(九大工応用理学)

第3回熱測定セミナーを3月25日 東大宇宙航空研究所において、定量示差熱分析をテーマとして開催すること、IAEA の Oetting 博士の講演会を4月5日午前10時から東大において開催することを決定した。

会員動静(昭和49年10月9日~昭和50年1月28日)

(入会者)松野清一、木高 譲、荒木信幸、浜田文将、門倉秀公、佐藤智子、中村尚武、土井邦雄、大山千世子、山内克文、村田重男、龍見雅美、岸本耕二、前田好美、野中甲蔵、荒井康彦、田辺幸夫、宮田清蔵、李 璋雨、佐藤豊美、津田泰之、竹之内正紀、佐藤志津子、今中明子、久野栄進、上原 章、田中弘富、藤本健二、

田中重幸、増田立男、小林清志、竹永 満、松枝光太郎、山下俊保、篠崎威夫、荒田吉明、岸本 博、坂坂義信、深田はるみ、金光聰子、宮川金二郎、野路翠星、山浜敏一、

(退会者)松野栄仁、小嶋茂雄、小林健伸、平井美和子、持田 繁、小野和信、乙黒盈昭、内藤俊男、徳本俊道、喜多英明、林 良英、熊沢 伸、石井 寛、布垣寛一、中岡義朗、(維持会員)日本ゼオン中研、三鬼エンジニアリング、東洋ポールドウィン、英弘精機産業、昭和50年1月28日現在、正会員662名、維持会員48社

### 『熱測定』編集委員

高橋洋一(長)、小沢丈夫、大塚良平、菅 宏、三田 達

熱測定 Vol. 2, No. 2, 1975

昭和50年4月20日印刷

定価 1,000円

昭和50年4月30日発行

発行人 日本熱測定学会 松本直史

〒113 東京都文京区湯島1-5-31 第一金森ビル

電話 03-815-3988 振替東京 110303